

# ROTARY OPENS OPPORTUNITIES

Rotary



第2780地区  
大磯ロータリークラブ

ロータリーは機会の扉を開く

2020～2021年度RI会長  
ホルガー・クナーク

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

★事務所：神奈川県平塚市豊原町22-13 TEL/FAX：0463-36-2255

★例会：第1・第3・第5 木曜日 12:30～13:30 大磯プリンスホテル TEL：0463-61-1111 FAX：0463-61-6281  
会長 新宅 文雄 会長エレクト 守屋 紀忠 幹事 大藤 勉

## 第2504回 例会

令和2年10月29日 No.10

■司会：布川 史明 ■点鐘：新宅 文雄 ■合唱：それこそロータリー

◇プログラム ・11月5日：ガバナー補佐、理事会 ・11月12日：休会 ・11月19日：ガバナー公式訪問

### ◇出席報告

例会	会員数	出席数	出席率	メイクアップ	修正出席率
2504回	16(13)	9	69.23%	—	—
2502回	16(13)	7	58.85%	—	—

### ◇欠席者（4名）

原、太田、石山、百瀬さん

### ◇メイクアップ（0名）

### ◇長寿会員表彰：



### ◇ゲストスピーカー：野島健二大磯町教育長



生まれは地元大磯町です。後ほどまた詳しく紹介させていただきます。よろしくお願いたします。

☆布川SAA：先日行われた地区大会での長寿会員表彰＝河本さん、井上さん＝の記念品が届いています。

☆新宅会長：河本さん長寿会員表彰おめでとうございます。

☆河本さん：最近昔のことを思い起こすことが多くなりました。昨日、ガバナー会から送られてきた歴代ガバナー名簿を開いて同期ガバナー（1996-97年



度)の名簿を見ましたら、34名中現役で残っているのは7名になっていました。1名は

名誉会員、3名は退会、23名が亡くなっており、色々な事を思い出していました。最近、家内とテレビを見ながら、昔の出来事や懐かしい歌などが出てくると、あの頃はああだった、こうだったと懐古話が出てくるようになりました。これまでなかった事です。幸い地域社会でボランティアセンターの仕事を手伝っていますので、前向きに行きたいと思えます。記念品「はとサブレ」沢山頂き有り難うございました。

(井上さんの記念品はご自宅へお届け)

#### ◇出席報告

#### 鈴木美乃委員



#### ◇会長報告

#### 新宅文雄会長



秋が深まり朝夕は冷え込んでまいりました。

過日、新聞を読んでいて、おや！と思うことがありました。

「博士と掛けて、足の裏に付いたごはん粒と解く、そのころは？とらないと歩きにくい、取っても食べられない」昔は「末は博士か大臣か」といって博士は仰ぎ見る存在であり、権威のあるものでした。それが、博士号をとってもそれだけでは食べていけない。例外的な事と思いますが、時代の変化を感じます。

本日は大磯町の野島健二教育長に、お越し頂きました。教育長有難うございます。後程卓話をお願いしております。よろしくお願致します。

去る10月18日(日)鎌倉芸術館において、国際ロータリー第2780地区の地区大会が挙行され、大藤幹事、守屋エレクト、新宅が出席しました。

クラブ会長にとっては、例年は2日間の地区大会になるところ、今年はコロナ禍の為に2時間10分で終えました。予定より30分早く終わりました。

当日のプログラムは下記の通りです。

- ・14時点鐘
- ・国歌とロータリーソング=奉仕の理想は、ピアノ演奏のみ、(発声なし)
- ・物故会員へ黙祷を捧げ、
- ・四種委員会の決議、決算・監査報告があり、会場から拍手多数で賛成承認。
- ・地区役員、委員、ガバナー補佐、他地区ガバナーの紹介はありませんでした。
- ・歓迎の言葉があり(鎌倉RC宮本英光会長)
- ・各クラブ紹介、(ガバナー補佐がグループのクラブを紹介)
- ・久保田ガバナーの挨拶と地区現況報告がありました。
- ・ビデオでRI会長メッセージと現況報告がありました。
- ・来賓挨拶は黒岩祐治神奈川県知事、松尾崇鎌倉市長のビデオメッセージ
- ・新世代メッセージもビデオ放映された。
- ・各種表彰があり、河本さんと井上さんが長寿会員表彰を受けられました。



・大磯RCと二宮RCは最高の会員維持率(退会者0)の表彰を受けました。

・地区幹事の横山英夫氏が、女性アナウンサーと一緒に司会進行されました。

- ・16時10分点鐘



・久保田ガバナーから礼状が届いております。別紙読み上げる。

・財団・米山寄付については大磯RCは以前と変わらないベースの寄付額ですが、他のクラブの中にはハイレベルな寄付をされており、大磯RCは表彰対象から外れてきております。我々は精一杯頑張った訳ですから「我が道を行く」で結構だと思います。

・言葉足らずでしたが、インドへの寄付は、ニューデリー南西RCより、「コロナウィルス感染患者搬送用車輦2台調達」のため、第2780地区へ依頼があり、1人当たり500円相当でしたが、大磯RCは10,000円贈った訳です。

・前回理事会報告で、太田知加子会員のお母さんが100歳になられることを祝して、些少のお祝いを贈ることにしましたら、太田さんから辞退させて欲しいと事務局に連絡があり、気を煩わす事のない様に取り消したいと思っております。

#### ◇幹事報告

#### 大藤勉幹事



#### 回覧：

1. 会員増強表彰状＝最高の会員維持率＝
2. ガバナーノミニー候補選出推薦依頼状：

2023-24ガバナー・ノミニーの推薦12/21せとまで

・先週ゲスト出席された大倉大磯町観光協会会長から、大磯邸園選考の内覧会に出席のお誘いを頂きました。11月3日に開園する二つの明治邸園＝大隈重信邸と陸奥宗光邸＝の見学に行きました。庭はまだ大磯町の管理下にありますが、建物の開放が先立って行われます。その時知ったのですが陸奥宗光邸は一度建てかえられているんですね。関東大震災で壊れたそうです。大隈重信邸の方はそのまま現存していますが、説明者が言うのには大隈邸の玄関前に相当な樹齢の楠が何本もあり、それが良かったのではということでした。11月3日以降町の方は少し賑わ

うことになると思います。また「港・コネクト」＝とても洒落た建物です＝が3月にオープンします。ただ中に入る業者さんがなかなか決まらないようですが、2階のレストランは決まっているようです。このような新しい事で町が賑やかになるのではと楽しみです。

#### ◇委員会報告：

#### ☆スマイルボックス

#### 瀬戸亨一委員



・新宅文雄さん：野島教育長、本日はよろしくお願いたします。

・河本親秀さん：大磯町教育長野島様ようこそ、本日は卓話よろしくお願いたします。

・守屋紀忠さん：野島教育長、本日はよろしくお願いたします。

・田中敏治さん：こんにちは、日々寒くなっていますので、風邪などに気をつけて過ごしたいと思います。会員の皆様も気をつけて下さい。また大磯町教育長の野島様ようこそおいで下さいました。

・桜川誠さん：本日は野島健二様よろしくお願いたします。

・布川史明さん：野島教育長、ようこそお越しくださいました。卓話楽しみにしております。よろしくお願いたします。

・鈴木美乃さん：野島様、スピーチ楽しみにしております。

☆瀬戸亨一財団委員長：先日土曜日に地区補助金説明会に出席しました。最近は海外支援が多いという事で、クラブとしては海外支援は多くない方が良くという考え方があるとの事。地域／地元密着的な支援の方が優先されると伺いました。海外の場合は事前の視察を必須にしたいとの事。地区補助金の使い道としてコロナ禍の中で良い案が浮かばないようだが、これから新しい奉仕の形を創設して欲しい。その時は頭を柔らかくして考えてもらえないかと

言われています。ルールの中でアイデアを出し合って新しいものを創設して下さいと言われた来ました。それと早めにプロジェクトを考えて頂きたい。事前相談はいくらでも受けますとの事です。会長エレクトは必ず出席するよう念を押されて参りましたので宜しくお願いします=二人一緒に聞いて貰いたいという事です。

☆布川SAA：皆さんの前に置かれているミカンは守屋さんのからの贈り物です。(感謝!!)

## ◇ 卓話

### ◆◆◆学校教育諸問題◆◆◆

野島健二大磯町教育長



配付資料：

1. 卓話レジメ
2. 少年問題の変遷＝犯罪白書より
3. 大陸から見た日本地図

私は大磯生まれで30才で平塚に移り40年、もうすぐ誕生日で70歳になってしまいます。ロータリーの皆様には子供たちが色々お世話になっています。昨年は少年用サッカーゴールを寄贈頂き、子供たちが思い切ってサッカーが出来るよう配慮頂きまして有り難うございました。

今日は決められました時間で「教育に関するお話し」と言う事で新宅会長から事前に色々資料を頂きました。それに応えられるか不安です。私は教師には不似合いな者で、友達から駄洒落だけで生きてるんじゃないよと言われます。ましてこんな話をする時に駄洒落はダメだよと…。今日はなるべく抑えながら行きたいと思えます。

この間NHKテレビで「チョコちゃんに叱られる」で、何で”おやじ”になると「おやじギャグ」が多いんだ？というのがありました。大学の先生は前頭葉がブレーキを掛けるんだが年を取るとだんだんブレーキが効かなくなって駄洒落が多くなるんだと言っていました。今日は出来るだけブレーキを効かしてお話したいと思えます。

### ○コロナ禍における学校の現状

皆さんご存じのように2月まではコロナ騒ぎがありましたが、それは中国の話だとかクルーズ船の話で、それ程気にしていなかった。

2月26日に町長からの電話で、直ぐテレビを見ろと言われ、見たら総理が学校を休業すると。最終的には各教育委員会が決める事なんだが、全国的にその方向で行くと発表し、これからどうなるかと大変な思いをしました。結果的に大磯町も3月、4月、5月そして6月再開するまでの間は休業しました。実は学校の中で大事なものは3月の卒業式、終業式そして4月の入学式。これは学習指導要領の中にも学校の行事として位置づけられている。大事なものですよ、こういうところで式の大切さを教えなさいよと言っています。今回はコロナの関係でお客様をお呼びしない。保護者も制限すると、3月までは手探りだったんですね。卒業式が出来るかどうか？これはお隣の平塚でもどうするか大分揉めていたんですが、結果として本当にシンプルな形で実施すると言う事になりました。入学式になると新1年生は保護者が来ないと来られなくなるんじゃないか？と言う事でお祖父ちゃんお祖母ちゃんは遠慮して貰うけど保護者には総勢来て貰わないと右も左も分からない1年生が来れないと、色々工夫して実施して…、でも休業中なんです。

児童たちは家にいて、教員は学校に詰めています。4月になっても顔が見えないという事で手持ち無沙汰でした。最初のうちはそうでしたが、そのうちに事業を進めないといけない、ではどうしようか？と言う事で先生が作った教材をリモートを使って子供に届ける形を取る事になりましたが、それをキャッチできるシステムを持っているか？細かい事に拘っていると何も出来ない。出来る事からやろうじゃないかと言う事になり、町の教育委員会の教育研究所のホームページに載せ、そこにアクセスすると大磯の教材は見えるようにし、何人かの子供たちは見られたのですが、利用できない環境にある者もあり、試行錯誤で4、5、6月過ごし、6月になって学校を再開する事になりまして、三密(壇ミツでなく)はダメという事で一斉に集まると駄目な事は分かっ



ている、＝1年生は35人学級、2年生以上は40人学級。フランスは現25人学級を15人にしたいと言っている。日本は30人学級にしたいと言っても財務省が認めない。そこでクラスの半分ずつ登校させよう→国府地区では地区によって分けて＝兄弟がいるから＝それと学年で分けて何とか授業を再開しました。トイレなどの消毒をしたり、体温を計ったり(体温計早期は国が負担)の対応をし、普段とは違う生活を強いられました。最近では言葉が綺麗になり「正しい生活様式」と。言葉はいいが現場はシツチャカ・メツチャカで過ごしたのがコロナ禍の下での状況です。いい話もあります。「学校へは毎日来なくてもいいんだよ」と言ったら、今まで不登校気味だった子がずっと一緒に休んでいた子供達とこれを機に一緒に行ってみようかとこれを機に何人かは登校できた、これはラッキーという感じです。



### ○今、教育に求められているもの

・少子高齢化、グローバル化、情報化が進展 文部科学省から10年ごとに学習指導要領が改定される中で、1920年代はこういう時代になると言われています。しかし10年後は予想つかないと言っている。我々も10年前、皆がスマホを持っていたかな？ガラ系だったかな？どんどん変わっている。ましてAIについてオックスフォードの教授が現在の半数以上の人間がAIに取って変わられるのではと言っている。典型的な仕事＝教員の仕事はどちらかというそれ以外と思われがちなんですけれど学校の先生でも決まった事しか教えない先生はAIに変わって貰った方がよいという感じです。あと電車の運転士、全部自動に変わってしまう。こういった先の読めない中で子供たちに求めるものは何なのか？AIと旨く付き合っていく力が子供には必要じゃないか？AIに使われるのではなくて、幅広く色んな情報をキャッチして。AIは記憶力抜群です、どう見たって敵いっこないです。我々、昔覚える事が中心だったし

子供たちにもそう教えてきたんですけど、それは必要なものは覚えて、後はポンと押さえるとポンと出てくるので、子供たちはAIを使いこなす事。それを使う時の道徳性、道徳性が伴わないと便利な機械＝ロボットに銃を持たせて反乱させたらどうなるか＝が兵器になってしまうので道徳性を養う必要がある。この少子高齢化、グローバル化、情報化に対応して小学校でプログラミング教室を立てる必要がある。こう言うとプログラマーを作るのか？そうじゃなくて、小学校で作文の指導をする事は全員作家になれという事ではない。作文の基本はこういうことだと教える事であるように、プログラミング教育もどういう形でコンピューターが動いているか、或いはAIを使ったものが動いているかという仕掛けを子供のうちからやりましょうという事です。中学校ではパソコンを使って色々やっていますし、高校もそうです。これを子供の早い段階からやりましょうという事です。こういう指示をするとお魚が指示の通り動くんだよとかを教える事が始まりました。

グローバル化に対応しては小学校で英語教育。今までは外国語を学ぶと言うよりは親しむ事にありましたがこれでは間に合わない。韓国ではもっと進んでいるんです。それで5、6年生は教科にする事に。時間を取って専門に教えなさいと言う事になりました。若い先生方はそれを察知して、学生時代に英語を教えるのだぞ、担任がやるのでぞと言う事が分かっているんですが、年配の先生方は野球で7回まで行ったらルールの改正で、急に君ピッチャーをやるんだよと言われたら困っちゃいますよね。それ同じで英語をやるんだよと言われたら、出来なくはないんだけど発音とかその他厳しいですね。でも、今進めています。3年、4年から英語を教育を始め、5年、6年は本格的に中学校でやる事を前倒しでやる。大磯の場合は学校数が少ないですから、出来れば担任の先生に教えさせるのではなくて、この2・3年で英語を専門でやって頂く先生、英語の免許を持った先生に小学校に入って頂いています。お隣の平塚ではなかなかそこまで行かない。私は平塚の教育委員を長くおりまして、隣の悪口は言えない立場ですが、小規模な大磯ですからそういったことが進められました。

### ○戦後の少年問題の変遷

配付資料の「少年問題の変遷」のグラフををご覧ください。1952年、終戦から間もない頃の問題は長欠、自殺、殺人、強盗、傷害、詐欺が多かった。これを10年毎の変化で見ると、1990年2000年頃から長欠が増えてきている。2015年に来ると完全に長欠が多い。

これが不登校の問題です。これをどうすれば良いのか？私の教員時代＝1980年代＝学校が荒れていました。学校によっては学校内をバイクが走り回ったり、トイレを壊したりする突っ張り兄ちゃん、姉ちゃんの時代でした。今の子は静かになって、非常によく勉強しているんですね。逆に学校に来れない。引っ込んだりしている。これをどうやって引っ張り出すか今の学校の悩みです。教育相談を充実させて不登校の子、或いは保護者の相談機能を充実させようと言う事で、私がこちらに就任してから教育研究所の中に教員の研修とか相談機能があり子供や保護者の方達の相談を受け持ちます。少しずつ成果は上がっていますがなかなか進んで行かない。小学校時代から子供たちにそういう傾向が出てくる。そのまま放置すると40才50才になっても家にいて結局社会に貢献できない、社会の一員として生活できていられないんですが、家に引き籠もり逆にマイナスになってしまう。一人でも社会の中で普通に過ごせる、特別に活動は難しいけれど普通に過ごせるようになるようこの相談機能を充実させるよう努力しております。



○ 子どもたちに何を求めるのか

混沌とした時代を生き抜く力というのはどういう力か？自分で考えて自分で学ぶ事です。文科省は一時期「アクティブラーニング」を学校でやりましょうと。今は横文字から「主体的で会話的で深い学び」と言っています。自分で考えなくてはいけません。答えが分かっているものを自分で探すのもいいんですが、これから先は答えがないんですけれど、何をすればいいんだ？と言う事を皆で考える。問題を解決するよりも問題を探求して突き詰めて行かねばな

らない。その為には今までの学校の授業の形を変えなければならない。例えば「すずめの学校」という歌があります。「チーチーパッパ チーパッパ 雀の学校の先生は 鞭を振り振りチイパッパ・・・」これは正にティチング、教え込みです。もう一つ「めだかの学校」＝「めだかの学校は 川の中 どちらが生徒か先生か みんなで元気に遊んでる」こちらの方は先生が子どもと一緒にやって行く、ティーチングでなくてコーチングです。そうすると新採用の先生は「それではこれからはすべてコーチングでいいですね」という。そう言う事じゃなく、漢字やかけ算の九九を覚えるのはティーチングで訓練しなくてはいけない。

タブレットを3月までに全員に配りました。大磯町と国からお金が出たので。タブレットが一人一台渡りました。子どもたちはそれを操作します。操作は先生より生徒の方が得意なんですね。先生は子どもたちが分からない事を教えて行く。困っている事を補助して行く。子どもたちに「何だ先生と同じくらいじゃないか」と思わせながら実はそうではないよという勉強をしておかないといけない。機械を使う事は確かに便利なんです。電子黒板があって、子どもたちのパソコンで作ったものがどんどん投影されてくる。それを見て子どもたちが見て「いいね」と思うと「いいねボタン」を押すのでこの意見に何人が賛成か直ぐ分かる。それと先生がボタンを押すと今までのやりとりの集積と分析が出てくる。教員が一晩使ってやっとなり上げるものが瞬時に出来てしまう。これを旨く使う事が先生方の知恵の出どころです。旧態依然として鞭を振っているだけでは駄目なんです。子どもたちと一緒にやりながら裏の方ではこちらの事を一生懸命やっらねばならない。或る子どもの知らせてやりたい意見を皆に示し、皆で討論して行く様に仕向ける。私は或る大学の教職課程の講師をした事があります。大学は先生は講義するだけ、学生は黙って聞いて、先生が書いた本を買わされて、答案を出して終わりでした。今はそれではダメで15回の講義のうち、学生が討論するのが何回、或いは1回のうちで討議する時間が入らない講義計画は受け付けられない。そういう時代に入ってきており、教員も勉強しないといけない時代になりました。

ここで大事なものは、ただ知識だけ詰め込めれば良いのではなくて、子どもたちがAIと生活して行くためには創造力を持っていないと太刀打ちできない。

創造性＝経験×意欲

経験＝知識の量と技能の質



幾ら経験があっても意欲が0であれば0  
子どもたちの意欲を育てなければならない。  
**非認知能力：意欲、忍耐力、自制心、創造性、社会性。**知識というのは木で言えば葉や幹の部分、目に見えない根っこの部分が**非認知能力**。これを育てるのは学校の授業ではなくて、**部活動、家庭での活動・体験**である。



#### ○教員へV・S・O・Pの話

**V：バイタリティ 20代** 若さで勝負、がむしゃらがいい 子どもと正面からぶつかる、ただし、聞く耳を持つこと

**S：スペシャリティ 30代**お父さん、お母さんの世代 10年選手は一人前何かその人らしい特徴が必要

**O：オーガナイズ 40代**中堅から熟年への移行期 体より口が先に動く組織の中でどう動くか中堅としてのリーダーシップが必要

**P：パーソナリティ 50代**教師としての品格が求められる 指導のスペシャリスト 学校をマネジメントする立場 周囲の人は、どのようなふるまいをするのか関心を持っている

**P：プラスαの5年 60代** 再任用の時代 豊かな経験と実績を生かし、恩返しの気持ちで教員は賢い者がいいのか？強い者がいいのか？**ダーウィン**は強い者、賢い者が生き残るのではなくて時代に応じて変化する者が生き残ると言っています。教員も30年40年やっている間に若い時のままではダメなんだよ、でないと子どもからも保護者からも地域からも認められないんだよ。これからコミュニティスクールなどで地域の方々にお世話になることも多い、また地域の方々と一緒にやっ行って行かないとどうにもならない時代だと言う事です。

○大陸から見た日本＝日本を上を描いた地図 この地図を見ると北朝鮮や中国にとって日本は邪魔なところ

にあると思いませんか。また、この地図で日本から遣唐使はこのようなルートで行ったんだというのが分かり易い。物事というのは裏から、横から、上から、下から見る能力を子どもたち、我々大人も身につけていかないとこれからの10年、20年先には耐えられないのかなと思います。こういうことを頭に入れて今のお仕事をさせて頂いております。

#### 質疑応答：

**質問：**アメリカでは生徒が質問すると先生は答えを出さないで、答えを出すプロセスを教え、生徒は自分で答えを出す。日本は答えを直ぐ出してやるので、答えを出して貰えないとパニックと言われているが？

**答：**その通り。子どもの質問に答える時は懇切、丁寧ではなく、不便。不自由、不親切＝いい意味での不便＝あえて仕掛けることによって分からないところ自分で或いは共に考えて答えを出す方式で対処する。あまり懇切丁寧にやるとその時は分かるが身につかない。アメリカでやっいてい事がすべて良いとは言えないが、良いところはどんどん取り入れてゆけば良い教師になれる。

以上

